参　考　資　料

参考資料１　COE―A **サブチーム「歴史遺産と都市文化創造」研究事業の概要**

参考資料２　**「21 世紀 COE プログラム」（平成 14 年度採択）進捗状況報告書（中間評価用）――部分**

参考資料３　**「21 世紀 COE プログラム」（平成 14 年度採択）拠点形成計画調書（中間評価用）――部分**

参考資料１

「歴史遺産と都市文化創造」研究事業の概要

2005 年 1 月現在

事業の趣旨（『歴史遺産と都市文化創造』2003 年 12 月、「はじめに」より）

21 世紀 COE プログラムの研究拠点「都市文化研究センター」では、2002 年 10 月の設立以来、３つの研究教育チームを編成し、「都市文化創造のための人文科学的研究」を推進してきました。うち「比較都市文化史」を分担研究課題とする A チームは、歴史的な側面から都市文化の研究を進めていますが、2003 年度には、都市のもつ歴史遺産を現代都市づくりにどのように生かすのかという、現代的な課題にも取り組むことにしました。

こうして結成されたサブチーム「歴史遺産と都市文化創造」では、次のような具体的な研究計画を立て、2003 年２月のセンター会議で了承を得ました。

１）立地条件、歴史的背景等の点で大阪市と類似した特徴をもつ海外都市を選び、それらの都市において、歴史的な文化遺産がどのように現代の都市文化創造に生かされているのかを現地調査する。

２）各調査の成果を持ち寄って A チームの月例研究会で報告し、歴史遺産と都市文化創造との関連について包括的に検討する。その際には、研究拠点の所在地である大阪市の都市文化創造にどのように寄与できるか、という課題に留意する。

３）研究の成果を報告書としてまとめ、都市文化研究者はいうまでもなく、大阪市をはじめとする自治体関係機関にも配布して、都市文化創造へ向けての問題提起を行なう。

事業推進責任者

中村圭爾（大阪市立大学大学院文学研究科教授・COE 事業推進担当者）

2003 年３月 31 日まで（研究事業企画）

井上浩一（大阪市立大学大学院文学研究科教授・COE 事業推進担当者）

2003 年４月１日より（研究事業実施）

分担研究者

A チーム事業推進担当者、A チーム COE 研究員、同特別研究員

事業推進協力者

大黒俊二、早瀬晋三、岸本直文、中野耕太郎（以上 A チーム所属）

多和田裕司（B「現代都市文化研究」チーム所属）

松村國隆、毛利正守（以上 C「都市の人間研究」チーム所属）

エバ・カミンスキ（15 年度 COE 研究員、ハンブルク大学）

佐藤隆（大阪歴史博物館）

北川央（大阪城天守閣）

2004 年度研究経費（修正予算）

総額１４３０千円

海外旅費・調査費	６００千円
消耗品費	３０千円（大阪市立大学重点研究予算より執行予定）
成果刊行費	８００千円（同上）

2004 年度海外調査（他経費による調査も含む）

2004 年３月１日～５月 10 日	釜山（大韓民国）	岸本直文（大阪市立大学 D 項在外研究）
2004 年９月 16 日～９月 20 日	上海（中華人民共和国）	佐藤　隆
2004 年 10 月 30 日～11 月３日	釜山（大韓民国）	岸本直文（私費）

2004 年度研究会

第 2 回シンポジウム「歴史遺産と都市文化創造Ⅱ――世界から大阪へ――」（COE－A チーム第 27 回例会）

日時：2004 年 11 月 13 日（土）13 時～17 時 30 分

会場：大阪市立大学学術情報総合センター１階文化交流室

報告者：佐藤隆、岸本直文、多和田裕司、北川央（報告順）

参加者：20 名。

2004 年度報告書執筆者（執筆順）

井上　浩一	大阪市立大学大学院文学研究科教授	西洋史学
佐藤　　隆	大阪歴史博物館第 1 学芸係長	日本史学
岸本　直文	大阪市立大学大学院文学研究科助教授	考古学
多和田裕司	大阪市立大学大学院文学研究科助教授	文化人類学
北川　　央	大阪城天守閣主任学芸員	日本史学
中野耕太郎	大阪市立大学大学院文学研究科助教授	西洋史学
図師　宣忠	COE 研究員（京都大学研修員）	西洋史学

「２１世紀ＣＯＥプログラム」（平成１４年度採択）進捗状況報告書(中間評価用)

機関番号	２４４０２

１．機関の代表者(学長)	（大学名）	大阪市立大学
	(ふりがな<ローマ字>)	Kodama Takao
	（氏　名）	児玉　隆夫

２．大学の将来構想

（世界的な研究教育拠点の形成を目指し、学長を中心としたマネジメント体制の下、どのような拠点形成の実現を進めてきたか。そのために、どのような重点的支援（例：学内予算措置、研究教育組織の改編、施設・スペースの整備、研究者及び研究支援者の措置等）を実施してきたか、具体的に記入してください。）

大阪市立大学は、国際都市大阪に立地する公立の都市型総合大学として、「大阪市立大学基本計画」に基づく長期的展望のもと、本学を特色づける学問分野の卓越した中心の形成に努めると共に、不断にこれを見直し、点検しつつ時代の要請に応えようとしてきた。本学および地域社会にとって重要であり、また学術的価値が高く大きな成果を挙げつつある研究に対しては、予算・人事の両面から重点的支援を実施し、世界的な研究教育拠点の萌芽・育成を行ってきた。

採択された21世紀COEプログラム－「都市文化創造のための人文科学的研究」－については、「基本計画」の指針に則った研究教育拠点形成と位置づけ、学長を中心としたマネジメント体制の下、その推進に尽力してきた。

この重点的支援の具体例は以下のとおりである。

（学内予算措置）

本学では、本学を特色づける優れた研究を推進するため、研究内容により「都市問題研究」、「重点研究」、「新産業創生研究」の３つの研究支援制度を設け、採択された研究課題に対し人的・財政的支援を行っている。

平成14年度から「都市問題研究」として採択された研究課題「大阪市とハンブルク市をめぐる都市・市民・文化・大学」は今回のCOE採択プログラムへ展開する先導役となっている。

また平成15年度からはCOE採択プログラムに関連する研究課題「都市文化創造のための比較史的研究」を「重点研究」として採択し、平成15年度は2000万円の財政支援を行った。

「都市問題研究」は３年間、「重点研究」は５年間継続して財政支援を行う予定である。

（研究教育組織の改編）

COEプログラムの採択直後の平成14年11月に、研究教育の拠点として、文学研究科内に「都市文化研究センター」を設置した。ここでは、分野別に３つの研究教育チームを設け、学術交流協定を締結した諸大学の研究者と協力して、都市に蓄積されてきた文化的伝統を歴史的に解明する基礎研究を踏まえ、都市文化の現状解明や、現代都市の諸問題への実践的な取り組みを唱導する研究を行い、将来この分野の研究を担い，本拠点の研究を継続しうる若手研究者の育成に力を注いでいる。

また、研究を多面的かつ有機的に進めるため、アジア的視点による都市の文化的研究を重視し、西欧のみならず東・東南アジアの主要大学の所在都市にサブセンターを置き、ネットワークで結んで研究を進めている。

さらに、各チームは研究機能とともに教育機能を有している。

（施設・スペースの整備）

文学部棟内の２室を、COEプログラムの推進を行う拠点として、COE事務室及びCOE会議室として確保し整備した。

（研究者及び研究支援者の措置等）

将来を見据えた若手研究者育成を目的として「若手研究者の自発的研究活動に必要な経費」を「COE研究員」に対して支給しているが、平成15年10月にはこのうち1名を学位取得に伴い博士研究員として雇用した。さらに「重点研究」に採択されたことに伴い、リサーチアシスタント２名を採用しCOE事業に協力させている。これらの研究教育拠点の人員の強化は研究の推進と若手研究者の育成に効果をあげている。

（その他）

研究教育拠点の発展に重要な国際学術交流にかかる海外出張について、個別に事務処理していたものを特例措置として一括事務処理を行ったことにより、事業推進担当者への事務的負担を軽減し、機動的な研究の遂行が可能となった。

このように、本学では学長を中心としたマネジメント体制の下、COEプログラムの推進により、研究教育拠点の実現に努めている。

「２１世紀ＣＯＥプログラム」(平成１４年度採択) 進捗状況報告書(中間評価用)

機 関 名	大阪市立大学	機関番号	２４４０２	拠点番号	Ｄ１４
１．申請分野 (該当するものに○印)	A<生命科学> B<化学、材料科学> C<情報、電気、電子> (D<人文科学>) E<学際、複合、新領域>				
２．拠点のプログラム名称 （英訳名）	都市文化創造のための人文科学的研究 Studies in the Humanities for the Development of Urban Cultural Creativity ※副題を添えている場合は、記入して下さい(和文のみ)				
研究分野及びキーワード	<研究分野：史学> (文化交流史)(異文化コミュニケーション)(生活様式) (宗教社会学)(芸能・芸術研究)				
３．専攻等名	文学研究科 哲学歴史学専攻 人間行動学専攻 言語文化学専攻				
４．事業推進担当者	(拠点リーダー名) 阪口 弘之 他 17 名				

５．拠点形成の目的、必要性・重要性

① 本拠点がカバーする学問分野を、具体的かつ明確、簡潔に記入してください。

本拠点は**「都市文化学」**という新しい学問分野の確立をめざしている。本拠点のめざす「都市文化学」とは、それぞれの都市のもつ**文化の伝統**を明らかにするとともに、より豊かな市民生活に向けての新たな**文化創造**をめざして、人文科学の広い分野が共同で行なう**総合的な学問**である。いうまでもなく、現代都市が抱える諸問題は世界に共通するものであり、「都市文化学」は**国際的な研究交流**を通じて追求されるべき学問分野である。

②-1 将来構想等(調書)との関係を踏まえ、本拠点の特色を述べるとともに、どのような世界最高水準の研究教育拠点を形成するのかがわかるように焦点を絞り、その目的、必要性・重要性について具体的かつ明確に記入してください。

「都市文化研究センター」は、新たな学問分野である「都市文化学」の研究教育拠点として、大阪・日本の都市文化のみならず、世界各都市の都市文化の研究者、若手研究者が交流する**国際的な研究教育センター**である。本拠点の研究教育事業は、海外の諸都市に設置された研究拠点（**サブセンター**）との連携のもとに行なわれ、相互交流のなかで内外の若手研究者を育成するなど、国際的な視点から推進される。

②-2 ＣＯＥを目指すものが、いかにユニークであるか。もし他に優れたものがあれば、それとの比較を具体的に記入してください。

１）本拠点では、各学問分野において個別に展開されてきた「都市史」「都市社会学」「都市地理学」などを横断し、さらに文学・哲学等の伝統的学問も含めて、**人文科学を総合した都市文化研究**と**若手研究者の育成**を行なっているが、このような研究組織は他に類例がない。

２）研究教育拠点「都市文化研究センター」の他に、アジアを中心に海外６都市にもサブセンターをおき、国際学術交流を通じて上記１)の研究を進める。しかもサブセンター間の交流も推進して、「都市文化研究センター」を中心とした**国際的な研究ネットワーク**を形成しつつあることもユニークな特徴である。

②-3 本拠点がＣＯＥとしてどのような重要性・発展性があるのか、具体的かつ明確に記入してください。

１）すでに14・15年度に学際的な共同研究に取り組むなかで、「都市文化学」という**新しい学問分野を確立**しつつある。若手研究者も、15年度における課程博士論文提出者数の激増にみられるように、旧来の専門分野の枠を越えて育ち、本拠点を支える新しい担い手となりつつある。

２）**豊かな都市文化の創造**は21世紀の世界に共通する課題であり、本拠点がめざす新しい都市文化創造へ向けての共同研究は、国際的にもますます重要なものとなっている。

③ 本プログラムで行う事業が終了した後に期待される研究・教育の成果について具体的かつ明確、簡潔に列挙してください。

１）研究拠点に整備された設備・資料をもとに、プログラム期間中に**学位を取得した若手研究者**を新たな担い手として加えて、「都市文化研究センター」における学際的な都市文化研究を継続発展させる。国際学術交流も、本プログラムで行なわれた交流を通じて築かれた実績・信頼関係をもとにさらに進める。

２）15年度より実施された**「大阪市立大学重点研究」**の長期的な支援を受けて、学術雑誌『都市文化研究』、文学研究科叢書の継続的刊行や、海外研究拠点（サブセンター）の維持をはかる。

④ 背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果とその学術的または社会的な意義・波及効果等についても記入してください。

１）本拠点は、歴史学において近年もっとも活発な都市史研究をふまえつつも、**人文科学の広い分野の共同研究**を進める点において、学界の動向を先取りするものである。

２）都市文化研究は、全世界に共通する**現代の都市問題**とも関わって、国際的にも関心が高まっている。

３）都市文化創造へ向けての研究は、大阪市などの都市自治体の**文化政策・文化行政**にも大きな意義を持つ。

６．平成１５年度までの研究拠点形成進捗状況

①　運営状況

（・当初の拠点形成の目的に沿って着実に進展しているか
・研究活動において、新たな学術的知見の創出や特記すべきことがあったか
・若手研究者が、有為な人材として活躍できるような仕組みを措置し、機能しているか
・拠点リーダーを中心として事業推進担当者相互の有機的な連携が保たれ、活発な研究活動が展開される組織となっているか
・国際競争力のある大学づくりに資するためどのような取組みを行っているか
・研究経費は効率的・効果的に使用されているか
・どのような形の情報発信が行われているか（国内・海外に向けて）
について、具体的かつ明確、簡潔に記入してください。）

１）研究拠点の組織体制の整備

14年10月にCOE採択が決まるとただちに**研究拠点の組織確立**に取り組んだ。15年度に予定していた北京サブセンターの設置が、SARSに伴う渡航制限のため遅れていることを除けば、拠点形成計画は順調に進んでいる。

①都市文化研究センターの設置

センター規程の制定、センター会議（事業推進担当者全員）、常任委員会（拠点リーダー・副リーダー）、各種委員会、事務局の設置等により、**センターの研究教育体制**を確立した。

※諸機関・委員会のうち、センター会議は研究拠点の最高決定機関として、事業推進担当者全員により、研究事業の全体について審議・決定している。

②海外研究拠点（サブセンター）の設置

従来から学術交流のあった大学を中心に海外６都市に**サブセンターを設置**する。14年度中に、上海、バンコク、ジョクジャカルタ、ロンドン、ハンブルクに設置した。

※サブセンター運営委員会を設置し、海外拠点での研究計画を検討・実施している。

③COE若手研究者（以下、COE研究員と呼ぶ）の採用

センターの「若手研究者の自発的研究活動に必要な経費に関する申合せ」にもとづき**COE研究員を採用**した。COE研究員は研究教育チーム（次項①参照）に所属し、事業推進担当者の指導のもと共同研究を進めている。

２）研究教育事業の推進

「都市文化研究センター」に設置された３つの研究教育チーム、および海外の研究拠点（サブセンター）を組み合わせて、学際的・国際的な都市文化研究を推進している。

①研究教育チームの編成と研究協力者

A（比較都市文化史）、B（現代都市文化）、C（都市の人間）の３**つの研究教育チーム**を編成し、事業推進担当者・COE研究員はいずれかに所属する。また、各チームごとに研究教育を推進するための研究協力者を学内外から募集し、それぞれ研究教育事業を推進している。

②国際学術交流

海外から多数の優秀な**研究者・COE研究員を招聘**し、都市文化研究を国際的に推進してきた。

各サブセンターにおいて国際シンポジウム、共同研究を実施した。SARSのため設置が遅れた北京サブセンターについても、学術書の刊行に向けて論文の翻訳交換という方法で学術交流し、16年度開設の準備をした。

海外の優れた研究者を招き、集中講義を行なう**インターナショナル・スクール**を15年度に開いた。16年度以降、質量ともさらに充実させて、国際的な視野に立った研究を推進する。

３）研究成果の普及＝情報発信

①『**都市文化研究**』第Ｉ号（2003年3月）、第２号（2003年9月）を刊行した（第３号は2004年3月刊行予定）。

②『**大阪市立大学文学研究科叢書**』第１巻（2003年3月）刊行を刊行した（第２巻『都市の異文化交流』は2004年２月刊行予定、印刷中）。

③国際シンポジウム・海外調査・共同研究等の**成果報告書**を順次刊行している。

④サブセンターで実施した国際研究集会の報告書を、国内版（都市文化研究センター刊行）・海外版（サブセンター刊行外国語版）に分けて順次刊行している。独自の『ニューズレター』を刊行して、研究教育活動を公表しているサブセンターもある。

⑤上記の諸成果の多くはHP上でも公開されている。英文HPの立ち上げは遅れたが、データベースの掲載体制も整い、各サブセンターのHPも整備されている。

４）研究経費の執行

①各研究教育チーム、サブセンター運営委員会等でまとめられた研究計画について、常任委員会およびセンター会議で検討したうえで、経費配分が決定される。研究経費の執行状況は、センター会議において各研究教育チーム・サブセンターの責任者からそのつど報告がなされ、**厳正な執行**がなされている。

②研究経費の執行にあたっては経費の有効な活用を旨とし、主要な費目である外国旅費に係る**運賃・宿泊料**についても、渡航計画を早い目に立てることによって、経費の節減を心がけた。

②留意事項への対応

（**「２１世紀ＣＯＥプログラム委員会」の審査結果により指示を受けた留意事項への対応（学外からの博士課程研究員の受入状況、大学院教育の実施状況などの現況等）について、具体的かつ明確、簡潔に記入してください。**）

審査結果では**「①現代性がやや希薄である」「②計画の継続的有機的な展開に留意されたい」**の指摘を受けた。

①については、現代都市文化を対象とする研究教育チーム（B）以外の２チームにおいても、現代的な視点をもった研究プロジェクトを実施した。15年度に開設された**大学院創造都市研究科**との研究協力も進めている。

②については、センター会議において、３つの研究教育チームの相互交流をはかっている。また、15年度より実施された大阪市立大学重点研究との連携によって、**長期的な研究プロジェクト**を進める条件が整備された。

③今後の展望

（**・今後、拠点形成を進める上で改善点（改善を加えた方が適当であり、そのように進めたいという考え方等）はないか**
・我が国のＣＯＥとして、どのような点が期待できるか（例えば、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官連携の視点からの評価、社会貢献等）について、具体的かつ明確、簡潔に記入してください。）

改善したいと考えている点

１）総合的な「都市文化学」を確立するため、ABCの３研究教育チーム間の連携をさらに進める必要がある。18年度には**３チームの研究教育活動を総括**すべく、**共同研究**を積み重ねてゆきたい。

２）各サブセンターにCOE事業担当者が常時滞在することは、授業その他の学内業務ゆえ難しく、サブセンターによっては維持管理上の空白期間が生じた。今後、COE研究員の海外派遣の日程を工夫するなどして、**サブセンターが継続的に機能**し、本来の目的を果たせるように努める。

３）研究教育チームとサブセンターの有機的なつながりをさらに密接にする。

４）拠点形成のための研究教育事業を円滑に進められるよう、常勤事務員を増やすなど**事務体制の整備**をはかる。

５）海外および国内他大学からのCOE**研究員の採用**を増やし、国際交流はもちろん国内の各大学との研究交流をさらに進める。

期待できる点

１）COE研究員の海外派遣、および海外からの若手COE研究員の招聘は、**長期的な国際学術交流**に向けての基礎をかためるものとなっている。また、研究プログラムを通じての海外の研究者（若手を含む）間の交流は、**国際的な研究ネットワークの要**として、文学研究科の評価を高めつつある。

２）研究拠点から次々と学術論文・著書等が刊行され始め、今後、全体としての研究水準が大きく向上する。

３）都市文化研究センターが主催した各種の国際シンポジウム・講演会・研究会には、多数の参加者があった。**「都市文化学」への関心**の高まりが感じられる。

４）総合的な「都市文化学」を確立することによって、**地方自治体の文化政策・文化行政**に指針を与えることが期待できる。

④その他

（**・この拠点は、学内外に対しどのようなインパクト等を与え、大学の個性に何を付加したか等について、具体的かつ明確、簡潔に記入してください。**）

１）課程博士論文提出者数の激増

採択初年度（14年度）には、COE研究員の課程博士論文提出は２名にとどまったが、平成15年度には課程博士論文９件を含めて計11件の学位論文がCOE研究員から提出された（現在審査中）。各研究教育チーム、さらには海外サブセンターにおいて研修を積んだことが、**学位論文に結実**したものといえよう。COE研究員の活動は、一般の大学院学生にも刺激を与えており、学位論文提出者数は来年度以降も増加を続けると思われる。

２）国際学術交流の進展

従来、文学研究科は**組織的な国際交流**にやや遅れをみせていたが、COE研究教育拠点「都市文化研究センター」を設置したことにより、この状況は抜本的に改善された。それとともに文学研究科の国際的な知名度も急上昇した。国際学術交流の海外拠点として５つのサブセンターを設置したことが、とくに有効であったと思われる。

14・15年度の**国際シンポジウム**は、海外５箇所のサブセンターにおいて計10回、拠点「都市文化研究センター」では、共同開催も含めて国際シンポジウム５回、海外研究者の講演会等15回の多きを数えた。

３）インターナショナル・スクールの開設

研究拠点「都市文化研究センター」に、COE研究員の国際的な教育を主目的とした**インターナショナル・スクール**International Schoolを開設した。今後は、海外からの受講生を増やすなど、インターナショナル・スクールをさらに充実させることによって、大阪市立大学は世界に開かれた大学となるであろう。

７．研究活動実績

①主な発表論文名・著書名

（事業推進担当者（拠点リーダーを含む）及び拠点となる専攻等が２００２年～２００３年に発表した主な論文名、著書名、学会誌名、巻、号、最初と最後の頁、発表年（西暦）の各項目について記入してください。）
（下記のうちで、主な発表論文の抜刷を３編程度添付してください。）

都市文化研究センター刊行**（以下、下線は抜刷30部添付）**

『都市文化研究』（都市文化研究センター機関誌）第1号、Ａ４判２段組、全196頁、2003年３月

『同』第２号、Ａ４判２段組、全218頁、2003年９月

『ハンブルク・サブセンター開設記念共同研究会報告書』Ａ４判、全146頁、2003年10月

『都市とフィクション』（国際シンポジウム報告書）、Ｂ５判、全252頁、2003年12月

『歴史遺産と都市文化創造──世界から大阪へ──』（海外調査報告書）Ａ４判、全142頁、2003年12月

都市文化研究センター共同編集

『アジア都市文化学の可能性』(大阪市立大学文学研究科叢書第1巻)、清文堂出版、A5判、全338頁、2003年3月

Searching for Alternative Globalism from Below, The East Asian Regional Conference in Alternative Geography, 80p, 2003.

Representing Local Places and Raising Voices from Below, Department of Geography, Osaka City University, 142p. 2003

サブセンター刊行

Urban Culture Research, vol. 1, S. Nakagawa, R.M.Soedarsono & I Made Bandem (eds), UCRC Yogyakarta Subcenter, 122p., 2003＝ジョクジャカルタ・サブセンター開設記念シンポジウム報告書（Ｂ５変形判）

What's Happening on the Street?, Urban Culture Research Series 1, S. Nakagawa, B. Sumrongthong (eds), 109p. , 2003＝バンコク・サブセンター開設記念シンポジウム報告書（Ｂ５変型判）

『城市研究　Urban Study Newsletter』（上海サブセンター、中国語）第１号～第８号、2003年

事業推進担当者の主な著書・論文**（上記の刊行物に収録されたものを除く）**

阪口弘之「竹本義太夫―道頓堀興行界の戦略―」『国文学　解釈と教材の研究』47－6、116～120頁、2002年

小林道夫「デカルト哲学の三つの次元」『アルケー』11、1～20頁、2003年

栄原永遠男『奈良時代写経史研究』塙書房、全538頁、2003年５月

同「貨幣構造とその変遷」『いくつもの日本Ⅲ 人とモノと道と』岩波書店、273～292頁、2003年５月

塚田孝『歴史のなかの大坂』岩波書店、全220頁、2002年９月

同『近世日本の歴史』（高木昭作・杉森哲也・久留島浩・鶴田啓と共著）放送大学教育振興会、2003年３月

仁木宏編著『都市―前近代都市論の視座―』青木書店、2002年

仁木宏「戦国期摂河泉都市のオリジナリティ―多核都市の「克服」と流通ネットワーク―」『ヒストリア』186、48～57頁、2003年９月

中村圭爾「『風聞』の世界―六朝における世論と体制―」『東洋史研究』61－1、1～27頁、2002年６月

井上浩一「ビザンツ帝国とヨーロッパ・アイデンティティ」谷川稔編『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社、72～87頁、2003年11月

森田洋司編著『不登校・その後－不登校経験者の心理と行動の軌跡』 教育開発研究所、2003年５月

谷富夫編著『民族関係における結合と分離』ミネルヴァ書房、全761頁、2002年２月

谷富夫「大阪都市圏における『民族関係』の問題」（岩崎信彦他編『海外における日本人、日本のなかの外国人』昭和堂、116～130頁、2003年２月

金児暁嗣『関西圏の都市住民と村落住民の生活様式と価値観の特徴』日本社会心理学会第44回大会報告集、2003年9月

水内俊雄『経済・社会の地理学』共著 有斐閣、水岡不二雄編、第7・10章執筆、2002年12月

同「スラムの形成とクリアランスからみた大阪市の戦前・戦後」『立命館大学人文科学研究所紀要』83、2003年12月

山口久和「宋学の脱超越化－王夫之」橋本高勝編『中国思想の流れ』下、晃洋書房、2003年６月

三浦國雄「規範都市としての北京(特集(1)アジア都市文化学の試み)」『自然と文化』69、14～21頁、2002年

中川真「祭調査への視点〈特集祭の音風景〉」『サウンドスケープ』４、7～12頁、2002年

S. Nakagawa, 'Masalah Pendidikan Musik di Perguruan Tinggi,' *Journal Etnomusikologi Indonesia "Selonding"* Vol.1, No.2, Institut Seni Indonesia Yogyakarta, Yogyakarta: pp.50-56, 2003.

橋爪紳也『モダン都市の誕生』吉川弘文館、全195頁、2003年6月

同『大阪ミナミに見る盛り場のダイナミズム』（監修）サントリー不易流行研究所、全86頁、2003年８月

②国際会議等の開催状況

（開催時期・場所、会議等の名称、参加人数（うち外国人参加者数）、主な招待講演者（３名程度）の情報について記入してください。）

2003年1月14日**「上海サブセンター開設記念国際研究集会」**於華東師範大学、参加者40(35)名、報告者：中国側陳映芳（現代城市社会研究中心所長）林拓（華東師範大学助教授）計２名、日本側２名

2003年3月12～13日**「上海サブセンター第２回研究会」**於華東師範大学、参加者60(54)名、報告者日本側２名

2003年3月29～30日**「ジョグジャカルタ・サブセンター開設記念国際シンポジウム」**於ガジャマダ大学、参加者40（35）名、報告者：インドネシア側 Soedarsonoガジャマダ大学教授他計４名、日本側４名

2003年4月8日**「バンコク・サブセンター開設記念国際シンポジウム」**於チュラロンコン大学、参加者50(40)名、報告者：タイ側 Kantamaraチュラロンコン大学教授、Khongkhakul同助教授他計３名、日本側３名

2003年4月7日**「ロンドン・サブセンター開設記念国際シンポジウム」**於ロンドン大学、参加者14(10)名、報告者：イギリス側 A. Gerstleロンドン大学教授、T. Clark大英博物館主任学芸員他計３名、日本側３名

2003年6月23～24日**「ハンブルク・サブセンター開設記念共同研究会」**於ハンブルク大学、参加者30(25)名、報告者：ドイツ側 R. Schneiderハンブルク大学教授、M. Rohde同助教授計２名、日本側３名

2003年7月20日**「大阪市立大学文学部創立50周年記念国際シンポジウム」**於大阪国際交流センター、参加者900名、パネリスト：海外 D.Keeneコロンビア大学名誉教授他２名、日本側３名。

2003年9月24～27日**「大阪市立大学文学部創立50周年記念連続講演会」**於大阪市立大学文化交流センター、参加者100(15)名、報告者：海外 R. Duquenneフランス極東学院研究員他計６名、日本側２名

2003年9月30日～10月1日**「国際シンポジウム・都市とフィクション」**於大阪市立大学、参加者100(10)名、報告者：海外 S. Doddロンドン大学教授、J. Arokayハンブルク大学助教授他計５名。日本側10名

2003年11月15日**「創造都市とは何か」**於メビック扇町、参加者100(３)名、報告者：C. Landry 英国シンクタンク・Comedia代表他計5名。大阪市立大学都市問題資料センター・同大学院創造都市研究科と共催

2003年12月3日**「上海フォーラム」**於華東師範大学、参加者30(22)名、報告者：中国側、高瑞泉（華東師範大学教授）、許紀霖（同教授）他計４名、日本側４名

※その他、海外の研究者を迎えての**都市文化研究センター主催講演会・研究会**、計15回

８．教育活動実績

（若手研究者等の人材育成プログラム（名称、対象、具体的内容（箇条書きで列記）、選考方法、支給額等）について記入してください。）

人材育成プログラム

１）COE研究員

①後期博士課程在学生、同修了生（所属大学・研究科は問わない）を対象とし、HP等を通じて公募した。本人の研究テーマ・業績および所属専攻・指導教官の所見をもとに、センター会議で採用を決定している。

②事業推進担当者の指導のもと、**都市文化研究センターの研究活動に参加**する。希望に応じて海外での研究事業に参加できる。国際学会・研究会での研究発表、『都市文化研究』への投稿が求められる。

③都市文化研究センターの「若手研究者の自発的研究活動に必要な経費に関する申合せ」に従って選考する。COE研究員には**規定額の研究費を支給**する。

④外国人COE研究員には、研究費の他、必要に応じて渡航費・滞在費を支給する。

２）COE特別研究員（16年度より設置予定）

①COE**プログラムを通じて学位を取得した者**を対象とする。本制度は、学位取得したCOE研究員を引き続き都市文化研究センターでの研究活動に参加させ、センターの研究事業をさらに活性化することを目的として設置されるものである。

②研究活動はCOE研究員に準じるが、より高度な研究に従事する。

③COE特別研究員には**規定額の研究費を支給**する。国内外での研究事業に対する経費はCOE研究員に準じる。

３）インターナショナル・スクール

①海外から優れた研究者を招聘し、COE研究員に対する**都市文化をテーマとした集中講義**を行なう。

②海外COE研究員にも受講させ、単位認定を行なう。

教育活動実績

１）平成14年度教育活動の実績

①国内２大学からCOE研究員を計26名を採用した（日程の都合により海外COE研究員の採用は見送った）。

②『都市文化研究』第１号掲載論文３本をはじめ、計25本の学術論文がCOE研究員によって発表された。

③２名が大阪市立大学博士（文学）の学位を取得した。

２）平成15年度教育活動の実績

①COE研究員（国内３大学）計30名を採用した。**海外からの**COE**研究員**は５カ国５名を採用した。

②14年度に学位を取得したCOE研究員２名のうち、１名は奈良県民俗博物館に主任学芸員として就職した。もう１名は大阪市立大学博士研究員に採用された。

③日本学術振興会特別研究員のうち、研究テーマからみて本プログラムへの参加が教育研究上有益と思われる者４名をCOE研究員に追加採用した（ただし研究費は支給しない）。

④『都市文化研究』第２号（15年９月）にCOE研究員の論文５本を掲載した。

⑤**学位論文の執筆指導を強化**した結果、課程博士論文９本を含めて、11本の学位論文がCOE研究員から提出された（現在、文学研究科において審査中）。

⑤平成15年9月24日～27日に第1回**インターナショナル・スクール**を開講した。授業科目「比較文化交流論Ⅰ」。講義13コマ（26時間）＋全体討論２コマ（４時間）、外国人講師６名、日本人講師２名）

「２１世紀ＣＯＥプログラム」(平成14年度採択)拠点形成計画調書(中間評価用)

機 関 名	大阪市立大学	機関番号	２４４０２	拠点番号	Ｄ１４
１．申請分野 (該当するものに○印)	A<生命科学> B<化学、材料科学> C<情報、電気、電子> (D<人文科学>) E<学際、複合、新領域>				
２．拠点のプログラム名称 （英訳名）	都市文化創造のための人文科学的研究 Studies in the Humanities for the Development of Urban Cultural Creativity ※副題を添えている場合は、記入して下さい(和文のみ)				
研究分野及びキーワード	<研究分野：史学> (文化交流史)(異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)(生活様式) (宗教社会学)(芸能・芸術研究)				
３．専攻等名	文学研究科　哲学歴史学専攻　人間行動学専攻　言語文化学専攻				

４．事業推進担当者　　計　18　名

ふりがな<ローマ字> 氏　　名(年齢)	所属部局(専攻等)・職名	現在の専門 学　位	役割分担(平成１６年度以降の拠点形成計画における分担事項)
(拠点ﾘｰﾀﾞｰ) Sakaguchi Hiroyuki 阪口弘之(61)	文学研究科(言語文化学)・教授	演劇史・文博	拠点ﾘｰﾀﾞｰ、ﾊﾝﾌﾞﾙｸ・ﾛﾝﾄﾞﾝ担当
Nakasai Toshirou 中才敏郎(55)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	哲学・文博	都市の人間ﾁｰﾑ
Sakaehara Towao 栄原永遠男(57)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	古代都市史・文博	比較都市文化史ﾁｰﾑ副ﾘｰﾀﾞｰ、上海担当
Tsukada Takashi 塚田　孝(49)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	近世都市史・文博	比較都市文化史ﾁｰﾑ
Niki Hiroshi 仁木　宏(41)	文学研究科(哲学歴史学)・助教授	中世都市史・文博	比較都市文化史ﾁｰﾑ
Nakamura Keiji 中村圭爾(57)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	比較都市史・文博	比較都市文化史ﾁｰﾑ、北京担当
Inoue Kouichi 井上浩一(56)	文学研究科(哲学歴史学)・教授	比較都市史・文修	比較都市文化史ﾁｰﾑ
Ishita Saeko 石田佐恵子(42)	文学研究科(人間行動学)・助教授	現代文化・社会博	現代都市文化ﾁｰﾑ
Tani Tomio 谷　富夫(52)	文学研究科(人間行動学)・教授	宗教社会学・文博	現代都市文化ﾁｰﾑ
Kaneko Satoru 金児暁嗣(59)	文学研究科(人間行動学)・教授	社会心理学・文博	都市の人間ﾁｰﾑ副ﾘｰﾀﾞｰ
Toyoda Hisaki 豊田ひさき(60)	文学研究科(人間行動学)・教授	教育社会史・教博	現代都市文化ﾁｰﾑ
Yamano Masahiko 山野正彦(58)	文学研究科(人間行動学)・教授	文化地理学・文博	現代都市文化ﾁｰﾑ副ﾘｰﾀﾞｰ
Mizuuchi Toshio 水内俊雄(47)	文学研究科(人間行動学)・教授	都市地理学・文博	現代都市文化ﾁｰﾑ、上海担当
Yamaguchi Hisakazu 山口久和(55)	文学研究科(言語文化学)・教授	中国思想・文博	都市の人間ﾁｰﾑ、上海担当
Sibahara Kouji 芝原宏治(62)	文学研究科(言語文化学)・教授	英語学・文博	都市の人間ﾁｰﾑ
Matsumura Kunitaka 松村國隆(60)	文学研究科(言語文化学)・教授	ﾄﾞｲﾂ文学・文博	都市の人間ﾁｰﾑ、ﾊﾝﾌﾞﾙｸ担当
Nakagawa Shin 中川　眞(52)	文学研究科(ｱｼﾞｱ都市文化学)・教授	都市音楽学・文博	現代都市文化ﾁｰﾑ、ﾊﾟﾝｺｸ・ｼﾞｮｸｼﾞｬｶﾙﾀ担当
Hashizume Shinya 橋爪紳也(43)	文学研究科(ｱｼﾞｱ都市文化学)・助教授	都市文化学・工博	現代都市文化ﾁｰﾑ、ﾊﾟﾝｺｸ担当

５．申請・交付経費（単位：千円）千円未満は切り捨てる　１４，１５年度は交付額、１６年度以降は申請額

年　度(平成)	１４	１５	１６	１７	１８	合　計
申請・交付金額(千円)	50,000	73,000	85,650	85,650	88,650	382,950

６－１．研究拠点形成実施計画（平成１６～１８年度）

（平成１６年度からの３年間の拠点形成にあたり、実施していく研究計画を具体的に記入してください。拠点形成を今後進めるにあたっての課題は何か。これに対して検討している解決策(研究計画、方法)を具体的に記入してください。記入した内容の実施状況は、事後評価等の対象となります。）

①ABC 研究教育ﾁｰﾑの活動を持続的に発展させる。

- 3 ﾁｰﾑとも**研究会、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ**を精力的に開催する。その成果は**報告書**にまとめる。しかし推進ﾒﾝﾊﾞｰにある程度のかたよりが生じていることも事実である。適切に**役割を分担**しながら、研究教育の実をあげていく工夫をする。
- 3ﾁｰﾑによって程度の差はあるが、研究会等への COE 研究員・事業推進協力者の参加が弱い場合があるので、適切に対応する。
- 3ﾁｰﾑと各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰとが円滑に連携して研究教育を推進できるように、役割分担を定める。

②各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ(ﾊﾞﾝｺｸ、ｼﾞｮｸｼﾞｬｶﾙﾀ、上海、ﾊﾝﾌﾞﾙｸ、ﾛﾝﾄﾞﾝ)の研究活動を強化する。

- SARS の影響で遅れている**北京ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**を開設し、研究・教育を推進できるように設備等を整える。
- 「**都市文化研究ｾﾝﾀｰ**」(以下本部ｾﾝﾀｰ)と各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰとの研究交流をさらに密にする。そのため、COE 研究員・COE 特別研究員の派遣と招聘を円滑に行う。また優秀な研究者の招聘と、日本側の事業推進担当者・同協力者の派遣を進める。
- 本部ｾﾝﾀｰと各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰとの事務ﾚﾍﾞﾙでの連絡をさらに円滑に行えるようにする。
- 各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰを中心に、国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・研究会を開催する。その成果は、報告書にまとめる。
- **ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ間の研究交流**を推進する。特にﾊﾞﾝｺｸ･ｻﾌﾞｾﾝﾀｰとｼﾞｮｸｼﾞｬｶﾙﾀ･ｻﾌﾞｾﾝﾀｰとは、平成 15 年度の実績を基礎に、さらに交流を推進する。
- ｻﾌﾞｾﾝﾀｰや交流協定締結大学・機関以外とも、優れた研究者、COE 特別研究員・COE 研究員の交流を進める。

③COE 研究員に博士の学位論文を早期に執筆させる。COE 特別研究員に研究を継続させる。

- 文学研究科・学術交流協定締結大学等との連携を密にして、COE 研究員に対する研究指導を強め、都市文化に関係する**学位論文を早期に執筆**させる。
- 海外採用の COE 研究員を日本に留学させ、適切な研究指導を行い、学位論文の執筆を援助する。
- COE 研究員として博士の学位を取得したものを COE 特別研究員に採用し、研究費を支給し、研究を継続させ、博士論文をもとにした**学術書の公刊を準備**させる。
- COE 研究員でないものが博士の学位を取得し、かつその研究テーマが COE の研究目的に合致する場合、COE 特別研究員に採用する。その扱いは前項と同じ。
- **ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**の充実を図り、COE 研究員・COE 特別研究員の研究促進の場としての機能を強化する。また 3ﾁｰﾑの研究会、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等で積極的に研究発表の機会を与え研究の進展を支援する。
- 以上によって、COE 研究員・COE 特別研究員を、将来、本拠点を担える人材として育成する。

④本部ｾﾝﾀｰの研究教育支援機能を強化する。

- 本拠点の事業全体を掌握し、さまざまな事態に適切に対処し、COE の研究教育活動全般を支援していくため、COE の事務機能を、主に**人的側面で強化**する。

⑤『都市文化研究』を着実に刊行する。

- 本研究教育拠点の**学術的機関誌**としての実質を維持・強化する。
- これまで刊行された 1,2 号と編集中の第 3 号は、年 2 回刊の定期刊行を維持してきた。今後 3 年間に刊行予定の全 6 冊についても、**定期刊行の維持**に努める。
- 現在行われている**厳格かつ厳密な査読体制**を継続し、**高度の学問的ﾚﾍﾞﾙ**の維持に努める。
- 特定のﾃｰﾏで論文を募って特集を組むなど、紙面構成のさらなる工夫を進める。
- 事業推進担当者、事業推進協力者、COE 研究員、同特別研究員の積極的な投稿を促進する。

⑥文学研究科叢書を刊行する。

- ABC 各ﾁｰﾑ、各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ等で行われた国際ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ、研究会等の成果や、学術交流協定を結んだ大学等との国際的共同研究の成果を、**学術研究書**として刊行する。

⑦ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ委員会の機能を強化する。

- 本部ｾﾝﾀｰ、各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ、3 教育研究ﾁｰﾑ、⑤⑥の 2 編集委員会の活動を迅速にﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞに反映させ、各種の報告書等の刊行物を PDF 形式で見られるようにする。
- 英文ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの充実を図る。
- COEの教育研究活動全体から生み出される**ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ**を公開する。

６－２．年度別の具体的な研究拠点形成実施計画

（項目６－１において記入された内容の年度毎の取り組み状況）

平成１６年度：

①**ﾊﾞﾝｺｸｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**(ﾁｭﾗﾛﾝｺｰﾝ大学)、**ｼﾞｮｸｼﾞｬｶﾙﾀｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**(ｶﾞｼﾞｬﾏﾀﾞ大学、ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ国立芸術大学)、**上海ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**(華東師範大学)、**ﾛﾝﾄﾞﾝｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**(ﾛﾝﾄﾞﾝ大学 SOAS)、**ﾊﾝﾌﾞﾙｸｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**(ﾊﾝﾌﾞﾙｸ大学、ﾄﾞｲﾂ恵光文化ｾﾝﾀｰ)の活動を継続発展させる。

②学術交流協定を締結した大学･機関（①の( )内）との研究教育交流を深める。そのため、**各国から**優れた研究者や各国で採用したCOE研究員を招聘して、日本において**共同研究の実**をあげるとともに、**日本側からも**事業推進担当者･同協力者･COE研究員･COE特別研究員等を派遣し、ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ、現地調査を行い、各国において研究会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等を開催する。

③**北京ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ**を開設し、設備･備品を整え、中国社会科学院を中心とする優れた研究者･COE 研究員と、日本側の事業推進担当者･同協力者･COE 研究員･COE 特別研究員等を招聘･派遣し、共同研究の実をあげる。

④上記ｻﾌﾞｾﾝﾀｰや交流協定締結大学･機関以外とも、研究者･COE 研究員･COE 特別研究員の交流を進め、研究会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等を開催する。

⑤**第 2 回ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**を「ｱｼﾞｱ･日本･世界の都市交流史」というﾃｰﾏで開催し、COE 研究員の研究推進、COE 特別研究員の研究継続の場とする。

⑥**文学研究科叢書**を刊行し、COE による学術研究活動の水準を示す。本書への事業推進担当者･同協力者･海外の優れた研究者･COE 研究員（国内･海外とも）･COE 特別研究員の執筆をうながす。

⑦『**都市文化研究**』**4、5 号**を刊行する。事業推進担当者･同協力者･海外の優れた研究者･COE 研究員（国内･海外とも）･COE 特別研究員の執筆をうながす。

⑧以上の②～⑦を通じて、日本の COE 研究員のみならず、海外で採用した COE 研究員についても、**学位論文の早期執筆**を指導する。また、COE 特別研究員の研究を継続させ、学位論文をもとにした**学術書の公刊を準備**させる。

⑨本部ｾﾝﾀｰの研究教育支援機能を強化する。

平成１７年度：

①平成 16 年度の①～④に同じ。

②**第 3 回ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**を開催し、COE 研究員の研究推進、COE 特別研究員の研究継続の場とする。

③**文学研究科叢書**を刊行し、COE による学術研究活動の水準を示す。本書への事業推進担当者･同協力･海外の優れた研究者･COE 特別研究員･COE 研究員（国内･海外とも）の執筆をうながす。

④『**都市文化研究**』**6、7 号**を刊行する。事業推進担当者･同協力者･海外の優れた研究者･COE 特別研究員･COE 研究員（国内･海外とも）の執筆をうながす。

⑤以上の①～④通じて、COE研究員（国内･海外とも）の学位論文の早期執筆を指導する。また、COE特別研究員の研究を継続させ、学位論文をもとにした学術書の公刊を準備させる。

平成１８年度：

①平成 16 年度の①～④に同じ。

②**第 4 回ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**を開催し、COE 研究員の研究推進、COE 特別研究員の研究継続の場とする。

③**文学研究科叢書**を刊行し、COE による学術研究活動の水準を示す。本書への事業推進担当者･同協力･海外の優れた研究者･COE 研究員（国内･海外とも）･COE 特別研究員の執筆をうながす。

④『**都市文化研究**』**8、9 号**を刊行する。事業推進担当者･同協力者･海外の優れた研究者･COE 研究員（国･海外とも）･COE 特別研究員の執筆をうながす。

⑤以上の①～④のそれぞれについては、**5 年間の COE 研究教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを総括**し、大阪市立大学重点研究と連携して、研究教育拠点のさらなる発展を目指す。具体的には、学術雑誌『都市文化研究』や大阪市立大学文学研究科叢書を継続して刊行するとともに、海外の研究拠点サブセンターを維持できるよう、研究教育体制の最終的な整備を行う。

⑥以上の①～④を通じて、COE研究員（国内･海外とも）の**学位論文の早期執筆**を指導する。また、COE特別研究員の研究を継続させ、学位論文をもとにした**学術書の公刊を準備**させる。

様式３　【非公表】

７．教育実施計画

（拠点を形成する際に実施される教育関係の取り組み計画において、将来的に見た研究人材等の創出の見込み、若手研究者の流動性(このプログラムにより成果を挙げた若手研究者及び学生のうち、他大学等で活躍している者の活動状況)等も視野に入れて、これまでやってきたこと、その成果及び今後取り組むべき事項等について、具体的に記入してください。）

【平成 14 年度】

①本ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの研究教育拠点である「都市文化研究ｾﾝﾀｰ」では、若手研究員を **COE 研究員**と称し、将来、本研究教育拠点を担う研究者として育成することに力を注いだ。
②文学研究科および国内の博士課程相当の大学院学生、またはｵｰﾊﾞｰﾄﾞｸﾀｰを対象に、COE 研究員を募集し、26 名を採用した。
③大阪市立大学として**博士研究員**の制度を作るように大学に働きかけた。
④COE 研究員に対しては、COE 関係の研究会で積極的に研究報告をさせ、研究の進展を促した。その成果は、**『都市文化研究』に対する投稿意欲**となってあらわれ、第 1 号には 3 論文を掲載した。
⑤学位論文の早期作成を指導したが、初年度で時間的制約が大きく、2 名が**博士(文学)の学位**を取得するにとどまった。

【平成 15 年度】

①平成 14 年度に COE 研究員であって学位を取得した 1 名を、**大阪市立大学博士研究員**として採用した。
②同じくもう 1 名は、奈良県立民俗博物館に主任学芸員として就職した。
③平成 14 年度末に本年度の COE 研究員を募集し、国内 30 人を採用した。また、外国からは 5 人採用し、長期間来日させて教育研究に従事させた。
④日本学術振興会の特別研究員 4 人を COE 研究員に採用した。ただし、研究費は支給しない。
⑤**第 1 回ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**を開催し、海外･国内から優秀な研究者を招き、主として COE 研究員を対象として、都市文化をﾃｰﾏに、集中的な講義とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを行なった。
⑥ABC の 3 研究教育ﾁｰﾑの研究会やｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑで、**COE 研究員に積極的に研究発表**させ、その内容を論文としてまとめる指導を行なった。このうち 5 本は『都市文化研究』2 号に掲載された。
⑦学位論文の早期執筆を強く指導した結果、11 名の COE 研究員が提出し、現在審査中である。

【平成 16 年度以降】

①文学研究科･学術交流協定締結大学等と連携しつつ、COE 研究員（国内･海外とも）に対する指導をさらに強め、**学位論文をできるだけ早期に執筆**させる。
②COE 研究員であって博士の学位を取得したものを COE 特別研究員に採用し、研究費を支給し、研究を継続させる。
③COE 研究員でないものが博士の学位を取得し、かつその研究テーマが COE に合致する場合、COE 特別研究員に採用し、研究費を支給し、研究を継続させる。
④平成 16 年度には「ｱｼﾞｱ･日本･世界の都市交流史」を統一ﾃｰﾏとする**第 2 回ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙｽｸｰﾙ**を開催し、COE 研究員の研究促進の場としての機能を強化する。
⑤COE 研究員･COE 特別研究員を海外ｻﾌﾞｾﾝﾀｰ等に派遣し、ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ等も行わせ、研究の進展を促す。
⑥ABC 各ﾁｰﾑ、各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰが主催する研究会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等で COE 研究員･COE 特別研究員に積極的に研究発表をさせる。
⑦ABC 各ﾁｰﾑ、各ｻﾌﾞｾﾝﾀｰが主催する研究会･ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等の企画･運営に、COE 研究員･COE 特別研究員を積極的に関与させる。
⑧以上の②～⑦によって、COE特別研究員に、学位論文をもとにした**学術書の公刊を準備**させる。